

ZOOM UP!

笑顔 咲かせる人

vol.32

人がつながり笑顔がうまれる

このコラムでは、福祉の職場でイキイキと働く人を紹介し、仕事や人の魅力を伝えます。今回登場するのは、入社9年目の北山さん。やりがいや今後の抱負について聞きました。

市町村を越えたつながりづくりを

～大阪府市町村ボランティア連絡会の取り組み～

大阪府市町村ボランティア連絡会(以下、府ボラ連)は、府内で活動するボランティア連絡会(以下、ボラ連)が集う連絡会です。令和6年3月末時点で30連絡会が参加しており、結成28年目を迎えます。ボランティア活動の発展と地域福祉の向上をめざし相互の交流や情報交換などを行っています。今回は、2月19日に実施した研修交流会のようすをお届けします。

府ボラ連では、総会や代表者会議に加えて年2回、研修や交流の場を設けています。

その内の一つである研修交流会は会員同士の情報交換や交流を目的に開催しており、コロナ前まではボランティア団体による活動発表、ブース出展(体験・展示コーナー)を実施してきました。コロナ禍で2年間中止を余儀なくされましたが、昨年度から再開。今年度はコロナ前の形式で実施しました。企画・運営の中心は役員が担っており、それを事務局がサポートしています。

活動発表では4団体が登壇し、日頃のボランティア活動報告を中心に、事業を開始した経緯や工夫、課題などについて発表しました。フレイル予防のための口コモ体操の体験や、紙芝居ボランティア団体による実演など、会場全体が一体となる場面もみられました。

体験・展示コーナーには6団体が出展し、点字体験や作品の展示など、創意工夫を凝らしたブースが並びました。

また各ボラ連や社協で作成するチラシの掲示コーナーを設け、「いいな」と感じたチラシに投票する企画を実施。上位3団体には役員から表彰状が贈与されました。

研修交流会は、発表者や出展者の思いや工夫を知り、今後の活動のヒントを得る機会になるとともに、参集し得られない交流の大切さを改めて認識する機会になりました。

参加者からは、「他市町村の活動を参考にしたい」「今後も交流の機会をつかってほしい」などの声がありました。ボランティア団体が高齢化や担い手不足といった課題を抱える中で、府ボラ連では市町村を越えたボラ連同士の交流の場を作ること、よりよい活動につながるような企画・運営に今後も尽力していきます。

府ボラ連について
知りたい方はコチラ!!



人とつながる仕事

中学生の頃から福祉に興味があり、福祉系の大学に進学しました。大学のゼミや実習で、地域福祉を学び、いろいろな人とつながりをつくり、支援できる仕事に魅力を感じ、社協職員の道にすすみました。

現在は、民生委員児童委員協議会の事務局や共同募金運動、福祉委員会や小地域ネットワーク活動を担当しています。

ともに達成感を味わう

周年行事や研修など、初めて取り組む事業はどうしたらいいのか迷うこともあります。そんな時は、先輩職員に相談し、アドバイスをもらっています。

民生委員・児童委員のみなさんと一緒に事業を企画し、成功した時は達成感を感じます。みなさんからの「ありがとう」もとてもうれしいです。

地域の一員に

大切にしていることは、会って話をする。地域の人ももちろんですが、行政など関係機関にもできるだけ相手の表情をみて話すように心がけています。

地域の人と

少しずつ関係性ができていき、自分を頼りにしてくれる人がいてくれること、知り合いが増え、地域の一員になってきていることもこの仕事のやりがいです。



全力でサポート

地域活動の担い手確保が難しい中で、民生委員・児童委員のみなさんの負担を減らすためにどうしたらいいのか、活動の充実と負担軽減のバランスをいつも考えています。事務的なことは社協職員が行うなど委員のみなさんが活動しやすくなるように、今後もサポートしていきたいと考えています。

笑顔でつながる場を

地域の人が自ら作り出した取り組みは継続していくなど、地域の力を実感しています。世代間交流など誰もが笑顔でつながりを作れる場所をこれからもいっしょに作っていきたいです。



社会福祉法人
守口市社会福祉協議会
きたやま せい
北山 晴さん

体験・展示コーナー



出展作品の紹介を通して会員同士の交流が生まれます。

活動発表



多分野にわたる活動の発表のようす

当日のようすをお届けします。

動画はこちら!



▲(株)ユナイテッド・トゥモロー尾関 栄二氏よりチラシデザインへのコメントをいただきました。

地域で活躍する

民生委員・児童委員さん

NO.44



八尾市 小林 有美子さん
(民生委員歴23年)

質問数珠つなぎ

Vol.43 田中さんから質問

民生委員になってよかったことは?

A 小林さんの回答

訪問した時にもう「ありがとう」の言葉。元氣になれます。

このコラムは、地域で活躍する民生委員・児童委員(以下、民生委員)さんにスポットを当て、その方の思いを紹介します。今回は、働きながら、会長として活躍する小林さんにインタビュー。活動で大切にしていること、今後の抱負について聞きました。

● 地域へ恩返し

長年、小中学校で勤務していた経験を生かし、現在もスクールサポーターとして働いています。民生委員になったのは40代の時。生まれ育った地域に恩返しがあればと引き受けました。地域活動を活発にしたいと、フラワーデザインや折り紙の講師として、高齢者や子どもたちにも教えています。地域に楽しみの輪が広がるのを感じています。

● 信頼関係を大切に

大切にしていることは、信頼関係を築くこと。担当地区の高齢者に地元・天満宮の節分の福豆を毎年お配りしています。本人だけでなく家族からお礼を言われることが本当にうれしいです。また、地域の人にも、一緒に見守って

もらっています。ゴミが出ていないなどすぐに連絡をもらうことで、警察や家族への緊急対応をすることができました。

● みんなde参加

仲間の委員の協力的な態度に感謝し、勇気づけられているという小林さん。急に決まった新1年生の下校時の見守りに協力できる人をLINEで呼びかけたところ、すぐに参加の連絡がきました。おそろいのジャンパーを着て活動することで、民生委員が身近にいて、相談できることを地域に周知していきたいです。

● 笑顔de対話

学校との連携は、給食時の補助、町探検や、家庭科の授業の実習支援など多岐にわたっています。

学校をはじめ、関係機関とも笑顔で対話することで、つながりの輪(活動の幅)が広がっています。

コロナ禍で中止していた子育てサロンを全地区で再開するなど、委員のみなさんとこれからも笑顔でがんばります。